

## 琵琶湖を「守る」ための「活かし方」検討について

## 1. 趣旨・目的

琵琶湖の保全再生に向け、琵琶湖を「活かす人」が「守る人」となる好循環を創出することを目的に、琵琶湖を「守る」ための「活かし方」について、琵琶湖に関わる多様な主体から意見をいただきながら検討する。

本検討における「活かす」とは（平成 29 年 6 月 23 日自民党代表質問知事答弁）

- 『琵琶湖を守り育て、次の世代により良い琵琶湖を引き継ぐために、琵琶湖とその恵みを活用する取組』と位置付けている。
- いたずらに集客や経済効果のみを追求し、琵琶湖に高い負荷をかけるような活かし方を想定するものではない。

⇒ 具体的には、エコツーリズムや体験型の環境学習、琵琶湖と親しむスポーツなど、琵琶湖本来の価値や魅力を活かした、気づきや学びの契機となる活動を想定。

## 【※レジャー利用との関係について】

琵琶湖レジャー利用適正化基本計画の基本理念は「琵琶湖と人との共生」であり、これは琵琶湖保全再生計画およびマザーレイク 21 計画とも共通するもの。

保全再生計画に基づく本検討も、レジャー利用適正化と目的を異にするものではなく、環境負荷の低減に向けた規制や、秩序ある活動推進に向けた啓発等には県として引き続き取り組む。

## 2. 検討の進め方

琵琶湖が有する本来の価値や魅力を活かし琵琶湖を体感・体験できるような取組を推進することで、保全再生に向け主体的に行動する人を増やし、もって保全再生を進める方策、いわば「琵琶湖を活かすことで、琵琶湖を守る」方策の望ましいあり方を検討する。

- (1) 産官学金民、各分野の関係者等による「琵琶湖を守るための活かし方」検討会議を設置し、保全のための活用推進にあたっての、課題や可能性について議論をいただく。
- (2) 同時に、国内外における地域資源を活かした環境保全の先進事例について情報を収集
- (3) 検討会議での議論および先進事例を踏まえ、県が『琵琶湖を守るための活用のあり方』を取りまとめる（平成 29 年度末）

3. 「琵琶湖を守るための活かし方」検討会議委員（任期 平成29年度末まで）

【50音順・敬称略】

	分類	所属	肩書	氏名
1	マザーレイク フォーラム	滋賀県立大学 環境科学部	教授	井手 慎司
2	水環境 ビジネス	株式会社エフウォーターマネジメント	国際部 係長	大橋 希
3	スポーツ・ 福祉	NPO 法人琵琶湖ローイング CLUB	代表理事	小原 隆史
4	観光・ 湖上交通	琵琶湖汽船株式会社	代表取締役社長	川戸 良幸
5	学識経験者	滋賀大学 環境総合研究センター	センター長	北村 裕明
6	学生	滋賀県立大学 人間文化学部	(学生)	久保 瑞季
7	教育	県教育委員会 幼小中教育課	主査	栗田 一路
8	農林水産業 (漁業)	滋賀県漁業協同組合連合青年会	会長理事	中村 清作
9	金融	関西アーバン銀行	CSR・環境事業室 審議役	原田 久明
10	農林水産業 (林業)	東近江市永源寺森林組合	技術職員	松尾 扶美
11	メディア	株式会社エフエム滋賀	アナウンサー	森田 純史
12	行政	守山市 環境政策課	課長	山本 祐美子
13	スポーツ	オーパルオプテックス株式会社	代表取締役	山脇 秀鍊

#### 4. 『琵琶湖を守るための活用のあり方』での検討内容

##### (1) 琵琶湖の利活用についての現状や課題の整理

###### 【検討会議委員依頼時の主な意見等による課題例】

###### ■魅力や価値の再発見・整理が必要

- 「琵琶湖のブランド力への認識不足」「ブランド価値をどこに見出すのか」
- 「豊富な活動が散在している。物語化する必要」
- 「湖魚の美味しさが知られていない」
- 「琵琶湖を囲む山々とのつながりを認識する必要」
- 「琵琶湖と暮らしとのつながりが見えない」

###### ■活かしきれていないメリットがある

- 「市街地から近い等、立地面でのアドバンテージを活かしていない」
- 「知られていないスポーツや、把握していないニーズが存在する」
- 「福祉の場としても、潜在力は高い」

###### ■琵琶湖に係る情報発信ができていない

- 「琵琶湖の価値や魅力が十分に伝えられていない」
- 「活用を支えるしくみの周知が必要」
- 「インバウンドなどの来訪者に対し、訴求力のある仕掛けが必要」

###### ■体験の機会が提供できていない

- 「湖上スポーツなどが体験できる場や施設が限られている」
- 「他の小さな湖に比べ、湖上に出る手段が少ない」
- 「点と点を湖上でつなぐ手段が少ない」

###### ■交流人口の増加に伴う環境負荷への配慮

- 「レジャーや観光における、環境負荷への配慮が必要」
- 「インバウンドのマスツーリズム化への警戒」
- 「観光入込客数以外の評価軸が必要」

###### ■琵琶湖を支える人の確保

- 「指導者など、琵琶湖を支える人材の不足」
- 「シニア層など、活かしきれていない人材の存在」
- 「多くの人に参加して琵琶湖に関わることができる仕掛けが必要」
- 「関係者の高齢化・若者の参加が少ない」
- 「下流域や企業など、多様な主体に関わりを認識いただく必要」
- 「守ると活かすとのループに入っていない人を、取り込める仕組みが必要」

###### ■多様な主体との協働

- 「多様な業種の事業者が、CSRとして琵琶湖に関わりやすい工夫が必要」
- 「立場や主張の異なる関係者が歩み寄るための仕組みが必要」
- 「保全再生計画を、みんなの計画にしていく必要」

###### ■琵琶湖を支える財源や組織

- 「琵琶湖を活かすための財源をどう確保するか」
- 「持続可能な活用に向けた、利用規制や利用者負担」
- 「持続可能なマネジメント組織の必要性」

(2) 上記を踏まえ課題への対策や更なる可能性を整理し、必要な解決策や望ましい方向性を提示

【主な論点（予定）】

- ①琵琶湖の価値・魅力、ニーズの再発見・再評価
- ②多様な情報の掘り起こしや集約と、発信力の強化
- ③体験の場や機会の確保
- ④環境負荷を抑える工夫
- ⑤琵琶湖に関わる主体の協働や交流の促進
- ⑥活用を支える制度や支援のしくみ

(3) 保全再生と活用との循環に資する琵琶湖の具体的な活用方策を、複数の切り口から整理し、提案

【主な活用方策（想定）】

- ①琵琶湖を「楽しむ」（エコツーリズム、湖上スポーツ、湖魚食、健康 等）
- ②琵琶湖に「学ぶ」（教育旅行、環境学習 等）
- ③琵琶湖で「つながる」（湖上交通、暮らしとのつながり 等）

5. 主なスケジュール

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境審議会琵琶湖総合保全部会								第1回				第2回
琵琶湖を守るための活かし方検討会議	●	→	→	第1回		第2回		第3回		第4回		
庁内連携（琵琶湖再推進本部・WG）				●	→	→	→	→	→	→		
活用促進基礎調査（国内外・県内）		●	→	→	→	→	→	→	→			
「守るための活用のあり方」取りまとめ	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
								案案				最終

【検討会議での議題（案）】

- 第1回（7月下旬） 検討会議の趣旨・活用の現状と課題について
- 第2回（9月上旬予定） 課題への対応案（具体的な活用方策）について
- 第3回（11月予定） 「守るための活用のあり方」案案について
- 第4回（1～2月予定） 「守るための活用のあり方」原案について（最終回）